

2023年度

共同組織拡大・強化月間



バスツアー (大仙西支部)

民医連の医療・介護をすすめ、安心して住み続けられるまちづくりをひらけ、「友の会」を強く大きくする「共同組織拡大・強化月間」が12月4日まで取り組まれています。

新型コロナウイルスが収まり、規制が緩和された今年の月間では、各ブロック支部が、事業所職員と共同しての「地域訪問」「玄関前行動」出前講座などを積極的に取り組み、昨年以上の仲間ふやしの成果を上げています。

取り組みの中で新しい班・サークル、「担い手」も誕生していますが、そ

既に月間目標だけでなく年間目標を達成した支部もありますが、

目標にこだわった取り組みを年末〜年度末まで進めていきます。

(健康友の会みみはら 事務局 篠原 聡)

機関紙「とも」の配達協力をお願い

毎月1度、ご近所10部程度の「とも」の配達にご協力いただけませんか。健康づくりも兼ねて、地域と友の会をつなぐ「担い手さん」にあな

お問い合わせは、健康友の会事務局(☎072-1244-8061)まで

「仲間ふやし」が進んでいます！



いつでも元気を読む会 (梅南支部)



うたごえ (もず支部)



玄関前(鳳支部)



出前講座「食養生」(大浜支部)



ウォーキング (ふくいずみ支部)

の多くが、今やっている取り組みを、あらためて「ピラ」や「ニュース」で一回り広い範囲に「知らせ」た結果です。

武力行為即時停止を求める「緊急集会」開催 ～イスラエルによるガザ侵攻、ただちに中止を～

11月7日 13:00～ 100人参加



イスラエル軍によるパレスチナ自治区ガザへの侵攻とイスラム組織ハマスの戦闘で犠牲者は1万人を超えました。病院が爆破され、多くの子どもや女性など民間人への無差別攻撃に国際社会からの批判は大きくなっています。

耳原総合病院でも、友の会・地域に呼びかけ「即時停戦」「パレスチナに平和を」と緊急集会を開催しました。戦争放棄を謳う日本国憲法をもち、「いかなる戦争も許さない」ことを綱領に掲げた民医連の職員として、停戦を求める声を上げることを確認しました。

医療の現場から Vol.21

地域とつながり 在宅生活を支える

Aさんはバスで通院する80代の男性。道中で転倒するため、医師から「危険なのでヘルパー同行かタクシー利用を」と紹介されお話を伺いました。ケアマネとサービス利用を提案しても「一人で通院できる」との一点張り。支払いは必ず一万円札でして、おつりをポケットに突っ込む様子が気になりました。

猛暑の続く夏、「医者」に外に出るなど言わ

れたので涼しくなるまで受診しない」と本人からの電話。体調不良で受診した救急外来で「熱中症の危険があるから外出は控えるように」と提案を受けたと。極端ですが本人なりの対応。主治医から往診の指示が出ると、今度は「料金が高いから困る」と無料低額診療を活用し、往診開始。訪問すると自宅には無造作に置かれた小銭のため、当面は訪問診療で見守る事に。不安になるとクリニックに電話が入ります。多い時では日に数十回。内容は「今日は何時?何時?」など日時が分からない様子。電話対応する事務も含め

山で金銭管理も難しい様子で事情があつて家族とは疎遠。収入が生活保護基準以下なので制度活用も提案しましたが「俺は自分でできるんだ!」と自尊心が傷つけられたように怒り、その都度地域カンファレンスで検討。最初はケアマネと鳳クリニックだけだった支援者が、地域包括支援センター、薬局、ヘルパー、訪問看護、生活保護ケースワーカー、成年後見人にまで増え、結果的には地域とつながり、在宅生活を支える事ができました。

た地域カンファレンスを開き、具体的な対応方法を検討し役割分担。その後も薬の飲みすぎ、部屋に虫が湧いた、水道の閉め忘れ、家賃の支払い過ぎ、など次々に課題が浮かび上がり、その都度地域カンファレンスで検討。最初はケアマネと鳳クリニックだけだった支援者が、地域包括支援センター、薬局、ヘルパー、訪問看護、生活保護ケースワーカー、成年後見人にまで増え、結果的には地域とつながり、在宅生活を支える事ができました。

(鳳クリニック相談室 田中 千賀)